
Disguise Story ~仮面物語~

貂寡

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D i s g u i s e S t o r y 　（仮面物語）

【Zコード】

Z3666D

【作者名】

貂寧

【あらすじ】

仮面・・・それは私たちのすぐ側にある物です・・・。
そう・・・今この小説を読もうとしているあなたももしかすると
被っているのかも・・・。その仮面が見える女の子と田の見
えない男の子のお話です・・・。

ある男性がこんな事を言つていました・・・・・

『仮面・・・・それは本心を包み隠してしまつ物・・・
人間はそんな仮面を被つて生きている・・・・・
仮面・・・・それは、素顔を隠してしまつ物・・・・・
被つっているその仮面を脱いだ時・・・・・
本当に美しい素顔を持っている人間は・・・・・
この世界に1握りもないだろう・・・・・
今君たちが被つている物・・・・・
そうそれこそが仮面なのだ・・・・・・・』と・・・・・。

小さい頃はこの言葉を聞いても、何を言つているのか解りませんでした・・・・・
俺が被つている物つてなんなんですか・・・・・みんなが被つている物は・・・・・
母は、母です・・・・父は父です・・・・・
同じ顔なんて無いはずなのに・・・・・
仮面のような無表情の物を被る必要があるのですか・・・・・
しかし、今・・・・もう一度自分を見ていれば・・・・・一つだけ言えることがあります・・・・・
小さい頃に思つたことはすべて嘘だったのだと・・・・・
俺は自分の本性を隠しながら・・・・・・・
その本性がばれないよつこと・・・・・・・
びくびくしながら・・・・・仮面の中に隠して・・・・・

毎日学校に通っていました・・・・

いつからそうしていたのか解りません・・・・ただいつの間にか・・

そうやつて仮面の下に本性を隠していました・・・・

そう・・・・人間は仮面を被つて生きている・・・・

今この小説を読んでいるあなたも・・・・

私は、小さい頃から仮面という物を好んでなかつた・・・・
仮面は、人間の顔のような豊かな表情ではなくいつも同じ顔でにら
んでくる・・・・

人間も仮面を作つては自分の本心・・・・本音・・・・などを

他人に見られないように被つている・・・・

私はいつもそんな人間たちを見て悲しくなる・・・・

人間が仮面を付けて生活している・・・・

そう気付いたのは中学1年の夏休みだった・・・・

いきなりめまいに襲われ頭痛と吐き気を伴つたとき・・・・
私の目と耳はおかしくなつた・・・・

見たくも聞きたくもないのに勝手に入つてくる・・・・

仮面は、色々な形で現れる・・・・
たとえば、薄い膜のような物が顔に覆い被さつていたり・・・・

本当の仮面のようだつたり・・・・

狐のお面つて感じだつたり・・・・

本当に色々だつた・・・・

- ・ 俺は、高校に上がったときにはもう目が見えなかつたと思ひます・・・
- ・ 中学一年生の時に一部分がいきなり見えなくなり・・・
- 眼科に行くと・・・
- ・ 緑内障という病氣だと診断されました・・・
- 俺は、初めてその病名を聞きました・・・
- ・ 目薬を渡されて決まつた時間に決まつた量を差していましたが・・・
- ・ 症状がどんどんと悪化していき・・・ 中学3年の時にはもう3分の2ぐらいは見えなくなつていきました・・・
- 高校受験は、推薦で普通科に通りましたが・・・
- 実技試験は、絶対無理だつたと思います・・・
- 今授業では、数学を教えていますが聞いているだけで見えません・・・
- ・ 図は、もっぱら見えませんが・・・ 聞いているだけで・・・ 解
つてくる時があります・・・
- なんだか不思議な学校生活だと思います・・・

私は、公立高校にかよつてゐる・・・

だけどクラスメイトは、みんな仮面・・・ 仮面で名前を覚えてい
ると言つても良い・・・

聞こえてくる言葉は、色々・・・ 小学生並みのケンカ口調や・・・

自分の闇のことはもちろん・・・
他人への嫌がらせ・・・・・
どうしてこんなにもどす黒い人たちがいるのだろう・・・
私の周りには、人がいすぎです・・・
クラスだけでは、まだ良いが・・・
たとえば、全校集会の時全校生徒が集まりとても気分が悪くなる・
・
・
どす黒い空気が体育館内に充満して・・・めまいや、吐き気がしてくる・・・
今日は、全校集会です・・・
今日は、見えませんが全体の雰囲気で体育の授業じゃないことを知ります・・・
今日は、作文の賞状を渡される日でした・・・
夏休みに書いた人権にかんする物です・・・
人権は、俺にとつてはあまりない物でした・・・
日本では、人権が守られていると言いますが・・・
俺にとつて・・・目の見えない人にとって・・・
毎日の生活は、苦痛と同じようでした・・・
人権なんてありません・・・ただ単に不親切な世の中です・・・
目が見えなくては、階段も上れません・・・
もし踏み外したら・・・と思うと恐ろしさで誰かに助けを求める
くなり・・・
不安になり・・・暗闇から抜け出したくなるのに・・・
抜け出すすべが無くて・・・そして・・・・・・・

その不安を文章に表しました・・・

原稿は、母に代筆してもらいましたが・・・文は、俺の思つままに言いました・・・

ステージの上・・・

手を引かれて真ん中の方に連れて行かれます・・・
「賞状・・・大賞、川縁和様・・・」

あなたは、今回の人権推進協議会主催

第26回人権推進ポスター、作文の部で

当初の成績を認められましたのでこれを称します・・・

8月25日人権推進協議会会長・・・夏釜優華かかまゆうか」

拍手によつて顔が熱くなつてきます・・・

恥ずかしい・・・そうしてステージからつれでおろされます・・・
バックのステージでは、校長先生の話が聞こえています・・・

私は、ステージで表彰される人間を見ていた・・・
気分が悪くなり後ろの方で顔を伏せて座つていたが・・・
変な雰囲気が漂つてきたので顔を上げてみていた・・・
するとステージの上に見たことのない人が上がつていた・・・
表彰を受けているが・・・ふつうの人間とは違い・・・
なんというのだろう・・・先生に手を引かれている・・・
そのことで目が見えないとわかる・・・
私は、振り返つたその人の顔を見た・・・
いつも見ている・・・仮面を受けた顔ではなく・・・
目を閉じているものの表情豊かな本当の人の顔だつた・・・
私は、背筋に寒気を感じて頬に何かが伝つたのに気がつく・・・
同じ学校にいたのに解らなかつた・・・仮面を付けていない・・・

本当の人間・・・このうれしさに涙が出たのだった・・・
彼の名前は、川縁和と言つらしい・・・
一回見ただけで・・・天にも昇るような想いがわいてきた・・・
前から諦めてきたのに今このときには、立派な運命だと言つても良
い・・・

俺は、誰かに見られているような感覚を得た・・・
誰かは、解らない・・・ただ単に誰かに見られているような・・・
・・・

それが気のせいだとと思い座り込む・・・

暗闇の中何所を探しても何をしても暗闇なのだ・・・

私は、今日見た彼のことが気になっていた・・・
ベットに付いたあともうまく眠りにつけなかつたが・・・
ある程度落ち着くと寝れた・・・
と・・・思つたが今暗闇の中に立つてゐる・・・
ここは、何所なのだろう・・・
「誰か・・・いませんか・・・」
こんな暗闇の中にいるわけがない・・・

俺は、今夢を見ているのだと想います・・・・・

だけど、起きてこるととも寝てこるととも暗闇に支配をされてるので・・・・

解りません・・・・・

しかし・・・・・今夢だと気が付きました・・・・

声が聞こえます・・・・・「誰かいませんか・・・・」と・・・・

「ここにいるよ・・・・・」つむぎにおいでよ・・・・・

そういうつて声のした方に歩いていきます・・・・

私は、暗闇の中から声がしてびっくりした・・・・

「ここにいるよ・・・・・」つむぎにおいでよ・・・・

声のした方に歩いていく・・・・

淡く光る物が少しずつ近づいてくるよついに見えた・・・・

「ここにいるよ・・・・・！」

叫んでみる・・・・

「ここにいるよ・・・・・

見えないはずの淡い光が今見えています・・・・

これは、本当に夢なのでしょうか・・・・

叫んだ声が聞こえました・・・・だいぶ近くなってきたみたいですね・

・・・

「ヨリにいるよ・・・！」

そつ近くの方から聞こえてきました・・・

「何所にいるの・・・??」

叫んでみます

ちかくから「何所にいるの」ときにえた・・・

“振り返つてみると”

そこには、今日見た彼がいた・・・

そこには、見たこともない女人人がいた・・・
見たことがないと言うより・・・見えないから誰だか解らないが・・・
今は、はっきりと見えている・・・・・・

今は、目を閉じていよいよ

心の声が聞こえる

『見たこともない女人ですね……誰なんでしょう……』

答えたくなる

「わたし……麻芽夏つ^{あさがなつ}」

「わたし……麻芽夏つ^{あさがなつ}」

また心の声が聞こえる

『なんで……俺の思ったことが解るのでしょうか……』

「それは、心の声が聞こえる耳を持っているから……」

「では、何でいやな顔をしないんですか……」

心の声が聞こえるなんて……とても不思議なことを言つ人だと
思った……

「それは、ふつうの人間と違つて……あなたは、仮面を被つて
いないから

汚い物を見ないですむんだよ……」

「仮面……??」

「そう、仮面……人間は、仮面を被つているんですよ……

私には、それが見えるんだ……」

「見えるんですか……?どんな見え方をするのですか……」

「

・俺は、本当にこれが夢なのか……とつくづくがっかりしました……

「本当に仮面……あのつ……例で言つとたとえば……

劇で使うような仮面とか……お祭りの出店にあるような……
面です……それが、人の顔に付いていて
素顔は、隠されているんです……だからその……いつも
いつも同じ顔なので

「ミュークーショングが大変なんです……」

俺は、なんだか……うれしくなりました……
『もし彼女が夢じゃなく……本当に存在しているうれしいので
すが……』

「えつ……いますよ……あなたと同じ学校に……」

「また聞こえましたか……同じ学校つてあなたも星南高校です
か……」

「そうですよ……知らないのも解りますが……」

「目が……見えない物で……だけど今のあなたは、見えてい
ます……」

「何ででしょう……」

「解りませんよ……ただこれが夢だからだと思います……」

「だったら……私に会いませんか……今日、表彰されたとき
初めて知ったんです……
あなたののような存在がいたことを……今まで知らなかつた……
・
仮面ばかり見ていたので……」

「会いたいです……是非……俺は、目が見えないんです……

あなたが解らないんですね……」

「解りました……そだ……明日学校が終わったら校門のところで待っていてください

……そうしたら私が声をかけるから……声で判断してね……」

「はい……明日ですね……解りました……放課後待っています……

盲導犬を連れているのでわかりやすいと思います……」

「そう……では、また……」

「はい……声をかけてくださいね……」

そして暗闇の中に俺は残されました……
だけどなんだかウキウキしました……
学校が楽しみになりました……

私が目を覚ましたのは朝の6時だった・・・
夢だったのだと思う・・・
だけど・・・今日学校に行くのが楽しみだ・・・
彼に会うのが楽しみ・・・

そうして放課後が訪れた・・・

私は、遅くなつた・・・生徒指導の先生に呼び出されて・・・
遅くなつた・・・・・・・・・・・・・・・・・・

そして・・・校門に行つた・・・

彼は、暑い中待つていた・・・

声をかけてみる・・・

「あの・・・・

俺は、暗闇の中・・・夢の中の彼女を待つていました・・・
そこに昨日のような淡い光が差してきました・・・
そして突然声が聞こえてきました・・・

「はい・・・・・?」

「私・・・解りますか・・・・・」

俺は、もつ解っていました・・・・・

「麻芽さん・・・・?」

「はい私はす・・・・本当に、昨日夢だったのかな・・・・・
今思い出すとか」ぐく不思議なんだけど・・・・・」

「もうですね・・・・・」

「もうだ・・・・ちゅうとお話しませんか・・・・私、すいぐ氣分が
良くて・・・・・」

「はい、良じですよ・・・・俺も暇だし・・・・あっだけば盲導犬・・
・・シフォンもこまよ・・・・・」

「はいのワンちゃんシフォンって言つたですか・・・・もしかしてメス・
・・?・?」

「はい・・・・雌のラブラドールレトリーバーです・・・・・」

「じゃあ私のライバルだ・・・・・」

「ライバル・・・?」

「まあもうこういとは気にしないで・・・・・じゃあ・・・行きます
か・・・・・」

俺は、暗闇の中で彼女が笑ったような感覚を覚えました・・・・・
なんだか俺の顔もほころんでいるよと思えます・・・・・

私は、ゆっくり歩いていた・・・・・

隣の彼は、とてもうれしそうな顔をしていて仮面なんて何所にも見えなかつた・・・・・

彼は、心もきれいで・・・・・

今さつき盲導犬のシフォンをライバルと言つたのは、
彼のことが好きになり始めていたからだと想つ・・・・・

夏休み明けなのでまだまだ暑いです・・・・・
なので涼しさを味わおうとパフェを注文しました・・・・・
彼女がメニューを読んでくれたのでどんな物があるのか解りました・
・・・・・

盲導犬は、そんなことお構いなしに机の下でふせをしていると思
います・・・・・

「あの・・・・・ 麻芽さん・・・・・
俺、その小さい頃、仮面を人間が付けて生活していると聞いて・・・・・
信じられなかつたんです・・・・・
だけど、今の俺は、仮面を被つてている物と思つていました・・・・・
しかし・・・・ 麻芽さんに被つていないと言されました・・・・・

「これは、どういったことなんでしょう・・・・・」

「私には、解りませんが・・・・・
今の川緑君の中には、他の人間よりも澄み渡つていて・・・・・
なんと書つんでしょう・・・・・本当に・・・・・きれいなんですね・・・・・

「

「そうなんでしょうか・・・・・俺は、自分は汚い物・・・・・
ずっとそう思つてきました・・・・・」

「いいえ・・・・・私には、とてもきれいに見えます・・・・・本当に
美しいです・・・・・
例を言いましょう・・・・・今あのレジの所に立つている・・・・・女
の人・・・・・
あの人間の心はどうぞ・・・・・」

「そういつて彼女は、耳を傾けたと思います・・・・・
俺には、見えませんが雰囲気で解ります・・・・・・

「そうですね・・・・・とても汚い・・・・・
仮面は、狐のような仮面と言つていい・・・・・
で、心の中はいま肉を切り裂いて・・・・・血を見てみたい・・・・内
臓を取り出したい・・・・・
本当に気持ち悪いです・・・・・どうして私だけ・・・・・どうして聞
こえて・・・・・
どうして見えるの・・・・・どうして・・・・・どうして・・・・・

彼女は、泣いているのでしょうか・・・・・俺には、解ります・・・・・
そつと彼女のいる方に手を伸ばします・・・・・

淡い光のする方へ・・・・・

　　暖かい物に触れました・・・・・

柔らかいのでそれがほっぺただと思います・・・・・

もう少し上に行くと目があるはずです・・・・・

そこには、水のような物がありました・・・・・

涙でした・・・

「泣かないでください・・・・・俺には、見えません・・・
聞こえたりもしません・・・・・
だけど・・・俺には、あなたの考えていろことが解ります・・・
だから泣かないでください・・・・・
俺の側にいて・・・俺に仮面の恐怖を伝えてください・・・・・
二人で頑張れば生きていけると思うんです・・・・・
だから・・・・その力を捨てないでください・・・・・
お願いです・・・・そんなに泣かないでください・・・・・
」

私は、頬に彼の手の温かさを感じた・・・・・

私は、彼を悲しませてしまった・・・・・どうしよう・・・・・
「ごめん・・・・・泣いちゃあいけないね・・・・・もう泣かないよ・・・

だからずつと私の側で・・・・・笑つていてください・・・・・
ずつと・・・・ずつと・・・・・・・・・

そういうて私の頬にある彼の手に手を重ねた・・・・・
彼は、うれしそうに笑ってくれた・・・・・

そして今、私の側には、彼がいて・・・・・

その隣には、シフォンがいて・・・・・

複雑な三角関係・・・・・なんちゃって・・・・・

そうしてこのひみつたち・・・・・仮面のこいや心の中のこじとを語れてい

つた・・・・・

そして・・・・・いつの間にか見えなくなり・・・・・聞こえなくなつた・

・・・・・

そのこじとを彼に言つと・・・・・

彼は、笑つて頬をなぐてくれた・・・・・

私は、彼の唇に自分の唇を重ねる・・・・・

そうして目を閉じる・・・・

暗闇の中・・・・彼が笑つている・・・・・

俺の唇に何かが被さりました・・・・・柔らかくて暖かいものです・・・・・

それが彼女の唇だとわかり顔が熱くなつていきます・・・・・

暗闇の中・・・・俺に唇をつける・・・・・

彼女が見えた気がしました・・・・・・・・・・

そうして俺と彼女の不思議な関係が終わりました・・・・・

仮面の話は、これで終わり・・・・・・・

だけど覚えておいて欲しいです・・・・・・

私たち人間は、日々の生活を仮面を被つて過ごしています・・・・・

・・・

そつして都合の悪いことば、その仮面で覆い隠して他の仮面を見て
います・・・・・・・

もし彼女のような能力を持つている人間がいたとしたら・・・・・

・

もう、あなたの考えていることはお見通しですよ・・・・・
本当にどす黒い心を持つてている・・・・・そこのあなた・・・

今がチャンスですよ・・・・・

お友達に相談してみたらどうでしよう・・・・・

もし運が良かつたら・・・・・・

受け入れてくれるかもしませんよ・・・・・

だけど・・・・保証は、いたしませんよ・・・・・

(後書き)

私・・・仮面つけているかも・・・そう思つて いるあなた・・・
・ そう思つて 無くても良いです・・・もし良かつたら、感想を書
いてくださいね・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3666d/>

Disguise Story ~仮面物語~

2010年10月12日06時47分発行